

学校関係者評価報告書

愛媛県立宇和高等学校
学校番号 (38)

評価実施日		令和7年2月17日(月)				
委員	氏名	所属等	備考	氏名	所属等	備考
	門田 克之	西予警察署地域警備課長	学校評議員	荒井 栄二	八幡浜支局地域農業室西予農業指導班主幹	
	西川 宏志	宇和町商業協同組合理事長	学校評議員	和氣宗一郎	西予市商工会青年部元部長	
	兵頭 章夫	西予市役所産業部長	学校評議員	富本 周作	西予市立宇和中学校教頭	
	山本 健二	地域在住者 前下宇和保育園長	学校評議員	吉良 光司	宇和高校PTA副会長	
	上甲 成栄	学識経験者 学習塾講師	学校評議員			

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>1 今年度の最終評価について</p> <p>(1) 学校経営</p> <p><県立学校振興計画関連></p> <p>○校長のリーダーシップのもと教職員が一体となり、令和8年度からの総合学科への改編を見据え、宇和高校ならではの特色ある学校づくり、生徒目線での教育活動が実践されている。教職員の宇和高校に対するポリシー、情熱、英断により、総合学科開設に向けて着々と歩み出していると感じる。</p> <p>○入学志願者が増加傾向にあることを評価する。令和8年度の志願者が定員の120名を超え、令和8年度以降、魅力ある高校であってほしい。</p> <p>○宇和高校の魅力化が推進され、宇和高校進学を希望する生徒が確保されていると感じる。総合学科が新設される令和8年度に向けて、現在の中学2年生以下の生徒とその保護者に、その魅力をしっかりと伝えていくことが重要である。中・高で連携を深め、取り組んでいきたいと考えている。</p> <p>○令和8年度から2年間は、総合学科と現在の普通科・農業科が並存する期間が生じるが、教員は両学科の授業等に対応できるか。</p> <p>○総合学科になって、教育内容がどのように変わっていくのかを、もっと明確にアナウンスしないと、今のままではちょっと分かりにくい。しっかり新学科の内容を伝えなければ、志願者増加には結びつかないと心配している。中学校にも保護者にも分かりやすくPRして、魅力を伝えてほしい。</p> <p>(2) 学習指導</p> <p>○これまで普通科と農業科は授業を別に実施していたと思うが、総合学科になると全員一緒に行くことになるのか。生徒の習熟度には幅があると想定されるので、学校としてどのように対応していくのか。</p> <p>○これまで3年間で実施していた農業科の教育を、総合学科になって2年間でどこまでできるのか。また、スマート農業を進めていくためには、新たな施設・設備が必要だと思うが、整備できるか。</p> <p>○学習指導について、ICTの活用に関して1・2年生のアンケート回答がやや低い水準であるのが気になる。これまで通りの学習形態と、ICTとのベストミックスをはかっていければと考える。ICTを活用することで、各生徒の進捗や理解度に合わせた学習が可能である。デジタル教材やアプリを使って、反復練習や個別課題に取り組むことができ、従来の教科書や教師の指導と合わせて、より個</p>	<p>○令和8年度に開設する総合学科の教育課程が概ね決定した。新学科開設に向けた動きと、学校魅力化の動きを連動させ、相乗効果で魅力化が推進されていくことを目指したい。中学生数が減少していく中で、志願者確保につなげるための取組を強化していきたい。</p> <p>○入学志願者は、令和6年度が104名、令和7年度が100名となり、2連連続で100名を超え、充足率80%を上回った。総合学科として募集を開始する令和8年度の志願者数確保が、令和7年度の最重要経営課題と捉え、入学志願者数の目標値を120名(1.0倍)に設定し、取組を強化していきたい。</p> <p>○本校は、地元中学校と中高一貫校のような関係に近づけることを理想とし、中学校と連携を図りながら取り組んでいきたい。各種の学校行事等での交流の機会を増やしながら、新学科の生徒募集に当たっては、中学校の協力を得ながら進めていきたい。</p> <p>○令和8年度は1年生だけ総合学科、令和9年度は1・2年生が総合学科、令和10年度に全学年が総合学科となる。3学年全てが総合学科となった段階では、現在の教員数では難しいと考えているので、要員計画については、県教育委員会と協議していきたい。</p> <p>○令和7年度は、中学生、保護者、地域に対して積極的なPR活動を展開していく予定である。本校が目指す総合学科の内容がしっかりと伝わるように工夫して取り組んでいきたい。</p> <p>○1年生は全員が共通の教育課程を履修することになるが、国・数・英の主要3教科は習熟度別で講座を編成することを考えているので、習熟度に応じた対応ができると考えている。</p> <p>○2年間で農業教育を行うことについては、総合学科としての課題の一つであると認識している。2年間でアグリビジネス系列としての成果を出していくための方策を、引き続き検討していきたい。</p> <p>○引き続き、ICT活用に対する教職員のスキルアップを図っているところであるが、デジタル教材等を積極的に活用するなど、一人一台端末を活用した家庭学習での予習・復習の内容や課題の出し方等、各教科で検討し、努めていきたい。</p>

別化された支援に取り組んでほしい。

○教育指導の充実において、皆勤率の低下を理由としてD評価としているが、現在はコロナ以降、コロナ及びインフルエンザなどの感染力が高いものについては、学校全体や他生徒への影響を考えなければならない時代となっているので、そのあたりの対応も必要ではないか。

○資格取得の奨励については、目標値を取得人数で設定しているが、分母となる生徒数が減少傾向にあるので、取得率で設定する方が妥当ではないか。

(3) 生徒指導

○貴校生徒が大きな事故・犯罪に巻き込まれるといった事案は認知していない。また、地域安全運動において、貴校生徒と共同で広報を行うなど、地元に着した活動ができたことに感謝している。

○生徒指導については、笑顔での挨拶ができる生徒が増えているのは、教職員の普段の姿かと思う。挨拶の出来る生徒は、必ず将来有望な社会人となると信じている。

(4) 進路指導

○進路指導について、進路指導の充実についてC評価となっているが、国公立や難関私立大学に入学させるだけが重要とは思わないので、生徒全体に対する大学全体の合格率で判断してもよいのではないかと考える。

○進路指導について、国公立や難関私立大学合格人数が最終目的ではなく、将来目指したいものが何かを、生徒一人一人と向き合ってみつけ出してあげることが大切だと思う。将来像に向けて、生徒にとって目指すべき大学、専門学校へ合格できれば達成ではないかと考える。

○進路指導について、昨年同様、進学率、就職率ともに高く、素晴らしい取組だと感じる。高校の魅力化にも、学力保障と共に、進学、就職率の維持・向上は欠かせないものである。学科改編後、これらの取組が継続されることも重要である。

○就職希望者に対して、福祉のまち西予において、高齢者、障がい者、保育といった福祉の道を目指し、多くの生徒が西予地域において就職し活躍してもらいたい。

(5) 特別活動

○特別活動がA評価で、充実した活動となっていると思うので、今後も引き続き地域と連携しながら取り組んでほしい。

○愛媛駅伝など本校の活躍を非常に嬉しく思う。我々も学校全体が盛り上がりつつサポートしていきたい。

○特別活動については、地域の企業や住民との交流を深め、地域活動に熱心に取り組んでいただいている。今年度から生徒数も増加し、活気ある学校になり、部活動での活躍が素晴らしいと思う。

○特別活動について、学校の活性化のためには、部活動の充実が一番である。活躍がめざましい陸上競技部や野球部に対して、県内外からの応援メッセージが多数寄せられており、指導者の先生の熱意に感謝する。外部指導者の要請を含め、中

○生徒に健康管理（自己管理）を促すとともに、主体的に学ぶ態度の育成に努め、授業内容を工夫し、楽しい学校生活を送らせたい。皆勤率にこだわらず、発熱等の体調不良に対しては、引き続き、影響を考え対応していきたい。

○生徒数の減少に伴い、受検者数が減少しているが、取得人数については、延べ数であるので、個人が複数取得している。取得率では、少人数受検でも高い数値が出る可能性が高い。目標値を再考し、今後も資格取得の奨励に努めたい。

○4月に実施している非行防止教室に加え、警察による交通安全に関する講話の実施の依頼も検討したい。

○今後も多様性を認め合う生徒指導を継続していきたい。

○生徒個々が将来の自己実現のために掲げた高い進路目標に対して、譲ることなく達成に向けた方策や取組を施すことは、私たち教員に課せられた任務であると考えている。よって、私たち教員の設定する数値目標も高くなるが、その達成に向けた取組を全教員が協力して行っていく。

○生徒個々の将来への進路選択に、学校を挙げた全教員体制で当たっていることが本校の進路指導の最大の特徴であり、強みであると考えている。その中で何人もの教員と繰り返し面談をし、生徒個々にとって「より自らを成長させられる」進路選択となるように尽力している。

○学科改編後における一層の高校在学時の学びの広がりや校内外の取組の充実が、生徒たちにとって新たな就職や進学先の発見をもたらす、就職・進学率の維持・向上に繋がる豊かな経験と確かな学力を全ての生徒が有するものにならなければならないと考えている。

○現在も絶対数が多くはない就職者の中でも福祉に関わる企業等に就職する生徒がいる。さらに、進学する生徒も福祉に直接関わる学びはもちろん、直接の学びではなくとも地元西予市に貢献すべく、広く地域づくりについて学ぶべく進学する生徒は少なくない。

○生徒数の増加により、学校行事や部活動、生徒会、家庭クラブ、農業クラブの活動等にも活気が溢れ、主体的な活動につながっている。地域の方からの期待を受け、目標を掲げて活動できるように運営していきたい。

○目覚ましい活躍を遂げる部活動の勢いに続き、それぞれの集団の目標達成に向けて取り組んでいきたい。

○魅力化コーディネーターの取組をはじめ、地域の方々には、今後ともご協力を賜りたい。

○部活動については、来年度から部活動指導員や外部指導者の充実を考えている。学校の中だけではなく外部の力もお借りしながら、競技力向上や人間育成を進めていき

学生との合同練習等により連携を深め、宇和高校部活動の活性化につなげていただきたい。

○特別活動について、部活動、地域貢献活動、クラブ活動等、魅力ある活動が展開されている。生徒同士が協力して達成することが多いため、協力する力やチームワークを育む機会を提供するよい機会となっていると思う。今後も、スポーツや文化活動を通じて、リーダーシップや協調性、役割分担の重要性を学べるよう、充実した取組を展開していただきたい。

(6) 業務改善

○業務改善について、魅力化を進めているが上に、先生方の負担が多くなっているのかもしれないと感じた。生徒を手厚く教育していただき大変ありがたい反面、業務改善等位にも取り組んでいただきたい。

○業務改善について、働き方改革が進められている中で、業務負担が大きい教職員の負担軽減は必要不可欠である。教職員が健康で前向きに仕事ができなければ影響は生徒に及ぶので、優先的に改革を進めていただきたい。

(7) 自己評価の基準数値について

○全般的に目標を高く設定されているためB評価やD評価となっているが、十分な活動ができているものと判断する。なお、達成が困難な最高目標値については、適正な最高目標値への見直しが必要と考える。

たい。

○より高い目標を掲げることで、充実した活動を行い、他者との協働に喜びを感じられるような選手を育てていきたい。先輩生徒の取組や成果を、後輩生徒が引継ぎ、進化させていけるよう、活動を充実させていきたい。

○新学科開設に関する業務や、魅力化の推進に関する業務が教職員の負担増加になっている側面はあるが、業務改善による教職員の負担軽減は待ったなしの状況であり、一層取組を強化していきたい。

○業務の負担軽減に努めつつ、教職員の心身の健康管理に万全を期すため、健康診断やストレスチェック、休暇の取得促進、管理職との面談等、心身の不調を早期に発見できる職場環境の構築に、管理職がリーダーシップを発揮して努めていきたい。

○自己評価表のA評価の目標値については、各課で再検討を行い、実現可能性等を分析して適正な数値設定を行いたい。